

実験ノートから始める生成AI活用： 材料研究のプロセスを記録し、 理解し、次につなげる



講師

五十嵐 康彦

筑波大学システム情報系 准教授

2026. **7.30** [Thu]
14:00-15:00

オンライン開催(Zoom事前登録制)

生成AIの発展により、論文作成や文献調査だけでなく、実験そのものをどのように記録し、理解し、次の研究につなげるかが重要な課題になりつつある。材料研究では、画像、スペクトル、装置ログ、実験ノートなど多様な情報が得られる一方、実験中の観察や失敗要因、研究者の判断は暗黙知として残りやすい。本講演では、ロボット実験とカメラ観察、マルチモーダル生成AIを組み合わせた実験ノート作成の事例を紹介する。ポリアミック酸粒子合成における反応の濁り変化、実験条件と生成物の関係、操作のわずかな違いによる結果変化を題材に、実験プロセスをデータとして扱う意義を考える。企業研究者が生成AIを活用する際に、まず何を記録し、どの業務から試すべきかを考える入口としたい。

開催方法：Zoomを利用したオンライン形式による開催

※ご参加には事前登録が必要です。

右のQRコードもしくは下記のリンクからご登録下さい。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_twKfxL7LQE2zCRW_ekHjBw

